

特集

Female Urology の^{うん}^{おう}蘊奥

積み重ねられた知恵と技術の活かし方

企画にあたって

ここ数年でF-LUTS（女性下部尿路症状）やFemale Urologyという言葉も広く知られるようになり、サブスペシャリティとして確立した感があります。知識として一通りは知っておくための本や特集はありますが、Female Urology 専門家のこだわりを入魂した読み物は少ないのではないのでしょうか？

Female Urology を専門とする泌尿器科医の多くは、Functional Urologistとしての自負をもって診療をしています。例えば、過活動膀胱（OAB）の薬物治療1つとっても、尿意切迫感の強さや頻度、尿失禁の程度、患者困窮度、年齢、薬の作用機序、半減期など一瞬で多くの因子を思い浮かべ、投薬内容を決めています。もちろん理論と実際は異なり、いろいろ考えても考えなくても結果は同じということも多々ありますが、専門医の患者選択や治療適応を知っておくと役に立ちます。

また、F-LUTS の多くは生命に関わらないがゆえに、疾患を想起しない限り診断がつかないまま、漫然と同じ治療を続けられてしまっていることがあります。間質性膀胱炎や膀胱痛症候群はその代表ですが、睡眠時無呼吸症候群による夜間多尿や腹圧性尿失禁に対してOAB治療薬を処方していたり、膀胱腔瘍に対して骨盤底筋訓練で経過観察していたり、果ては尿漏れではないのに尿漏れの治療を試行錯誤していたりという見当外れの診療をよくみかけます。これらはちょっとした問診や検査が解決の鍵となります。

本特集では、熟練の婦人科医にもご協力いただき、泌尿器科医にとって知識不足なペッサリーと骨盤臓器脱の手術療法について包括的にご解説いただくほか、新たな疾患概念である閉経関連泌尿生殖器症候群（GSM）も紹介します。

本特集でFemale Urology の蘊奥にふれ、プロの技を日常診療のワンランクアップにお役立ていただけたら幸いです。

東京女子医科大学附属足立医療センター
骨盤底機能再建診療部

巴 ひかる